



## 施設内感染対策のためのチェックリスト（高齢者施設用）



参考までに、日頃から施設での  
感染対策に役立ててください。

【施設名】

【感染症担当者名】

【職種】

○：できている △：工夫が必要 ×：できていない

確認事項	対策のポイント	自己評価	他者評価
1 利用者の健康管理と早期発見について			
利用者の健康観察を実施し、発熱以外の症状にも注意している	咳や痰、充血を伴う目やに、下痢など、些細な症状も施設内で共有しましょう。		
施設内で体調不良のある利用者の情報が1日1回集約されている	体調不良者や感染症患者などの情報を集約し、感染症担当者・職員間で共有しましょう。		
施設内の体調不良者の症状や経過を記録し、夜勤従事者に引き継ぎしている			
2 職員の健康管理と早期発見について			
職員が体調不良を申し出ができ、休める体制である。	感染症を持ち込まないためにも、体調管理に気をつけましょう。		
出勤時に職員の有症状者を確認している			
3 手指衛生（手洗い・アルコール消毒）について			
全ての職員が、正しい方法で手洗いができる	流水で手を濡らし石けんを付けて泡立ちます。手の甲全体、指先、手のひら、指の間を洗い、親指をねじり洗いして手首も洗いましょう。		
利用者への対応前後に手指衛生を実施している	利用者に触れる前、触れた後は、手洗いやアルコール消毒をしましょう。		
擦込み式アルコール消毒薬をすぐに使用できる場所に配置している、又は職員が携帯している	いつでもどこでも手指消毒剤が使える環境を整備し、必要なタイミングで手指消毒が行えるようにしましょう。		
勤務開始時と勤務終了時に必ず手洗いを行っている	手に付いた菌やウイルスを、持ち込まない、持ち出さないことが大切です。		
目に見える汚れは、手洗いで洗い流している	アルコール消毒液には洗浄効果はないため、汚れは手洗いで落としましょう。		
状況に応じて、石鹸と流水での手洗いと、擦込み式消毒（アルコールなど）など、使い分けができる	例）目に見える汚れは手洗い、それ以外はアルコール消毒など。また、感染性胃腸炎が発生した場合は、手洗いを励行します。		

確認事項	対策のポイント	自己評価	他者評価
液体石鹸（ハンドソープ）は継ぎ足ししていない	石鹸ボトルにセラチアなどの菌が発生する場合があります。		
手洗い後はペーパータオルを使用している	布タオルを複数人で使用すると病原体が複数の入居者に拡散する可能性があります。		
<b>4 感染症予防のための環境整備について</b>			
多くの人が手で触れる場所（トイレ、廊下、各ドアノブなど）は、1日1回は清拭清掃している	普段は濃度 65%以上のアルコール消毒、感染性胃腸炎発生時は次亜塩素酸ナトリウムを用いて清掃しましょう。		
アルコールなどの消毒薬は、開封日、使用期限、保管方法など正しく管理できている	適切な効果が得られるよう、物品の管理に努めましょう。		
利用者の歯ブラシやコップは個人毎に管理している （ブラシ部分を接触させていない）	ブラシ同士が接触して、菌やウイルスが拡がる可能性があります。		
尿器やバケツなどは、使用後に浸け置き消毒をしている。	器材が感染源とならないように洗浄、消毒、乾燥・保管を行います。		
換気口を定期的に清掃しているか	ホコリや汚れで換気がしにくくなります。		
空気の淀みを感じた時には換気を行っているか	1～2 時間おきに 5～10 分程度窓を開けましょう。2 方向に窓や扉を開けると空気の流れがつかれます。		
<b>5 感染拡大防止のための看護・介護ケアについて（個人防護具の使用・管理含む）</b>			
目・鼻・口腔内等の粘膜、正常でない皮膚（発疹や傷など）には、必ず手袋を着用する	感染症の有無に関わらず、血液、体液、汗を除く分泌物、排泄物、損傷した皮膚、粘膜等の湿性生体物質は、感染の可能性があるためとみなして対応します。		
使い捨て手袋は、利用者毎に交換し、複数の利用者に同じ手袋を使用していない	手袋は 1 人ごとに交換し、汚染した手袋で周囲の環境に触れないよう注意し、汚染物の拡散を防ぎましょう。		
汚染した手袋のまま周囲の環境に触れていないか			
おむつ交換時には、必ず使い捨て手袋とエプロンを着用している	排泄物で衣服が汚染されるのを防ぐために、手袋やエプロンを着用しましょう。		
利用者が下痢をしている場合は、状況に応じて長袖エプロンを着用している	下痢等飛散が危惧される場合は、手首まで覆うことができる長袖エプロン(ガウン)を使う方法もあります。		

確認事項	対策のポイント	自己評価	他者評価
陰部洗浄ボトルは利用者毎に洗浄・消毒したものを使用している	排泄物を触った手でボトルを持ってしまうとボトルの側面が不潔になってしまいます。環境の汚染を防ぐためにボトルの内面と側面を洗浄・消毒しましょう。		
尿を破棄する際は、服が汚れないよう半袖エプロンを着用する	尿を廃棄するときはしぶきにより衣服が汚染する可能性があるため、エプロンで汚染を防ぎましょう。		
個人防護具（手袋、使い捨てエプロン、マスク、ゴーグル）などは、すぐに使用できる場所に配置している	嘔吐など、予期せぬ場合にも速やかに対処できるよう、個人防護具の保管場所を検討・共有しましょう。		
<b>6 感染症発生時の感染拡大防止について</b>			
施設内で発生した感染症の感染経路に応じた、個人防護具を選択できる。	<u>手袋</u> ：血液、汗を除く体液、排泄物、創傷部位・粘膜に触れるとき <u>マスク、シールド</u> ：咳やくしゃみ等の飛沫を浴びる恐れがあるとき <u>エプロン・ガウン</u> ：排泄物や嘔吐物が衣服に付着するおそれがあるとき		
感染症発生時、発生状況の把握と職員間の情報共有に努めている	施設内で感染状況を共有し、感染拡大防止のために職員全体で対策に取り組みましょう。		
感染症にかかった利用者と、そうでない利用者のエリアを別にしている（ゾーニング）	感染者が増えると汚染区域も広がるため、二次感染を防ぐために実施します。		
職員はフロア担当にして、利用者・職員ともに、別フロアに移動しないようにしている	職員を介して他の健康な入居者(利用者)へ感染が拡大する可能性があります。		
感染症に罹患した利用者を個室管理、または1カ所の部屋に集めている（コホーティング）	感染者が他の入居者(利用者)との接触を予防することで、感染が広がるリスクを低下させることができます。		
<b>7 感染対策についての組織の体制などについて</b>			
感染症担当者を決めている	平時から感染症担当者を決めて、対策に取り組み、感染症発生時に備えましょう。		
感染症発生時、職員から感染症担当者・医師（嘱託医）などへの連絡体制がある	利用者の変化を見逃さず、適切なタイミングで医師や看護師に相談・報告するために連絡体制を構築しましょう。		

確認事項	対策のポイント	自己評価	他者評価
感染対策委員会を定期的に開催している。	感染症の予防と感染症発生時の対応を確立するために委員会を設置しましょう。		
自施設で作成した感染対策マニュアル（手順書）がある	感染症が発生したときに備えて、平時からマニュアルを整備しておく、発生時に迅速な対応が可能となります。		
感染対策に係る研修を年2回以上実施している	感染管理に関する職員研修を定期的に開催し、平時から感染症発生時に備えましょう。		



#### チェックリストの活用アドバイス

- ・「自己評価」では、ご自身が所属する「ユニット」などでの感染対策について評価し、「他者評価」では、「他のユニット」の感染症担当者が評価してみましょう。